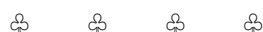


福島にもやっと春がやって来ました。もちろん桜の咲き誇る春です。

南相馬 柳美里 (ゆう・みり 作家) が出会う 23話 「記憶の使者のような花」

「この6年間、毎年同じ桜を見えています。福島県双葉郡富岡町の夜(よ)ノ森の桜です。

「夜ノ森」の謂(いわ)れは、この地を境に南が磐城平(いわきたいら)藩、北が相馬中村藩の領地で、双方が「余の森」だと言い張り譲らなかったためだと伝えられています。夜ノ森には、1,500本の桜による約2.5キロの並木道があります。



夜ノ森に最初に桜を植えたのは、現在の南相馬市小高区に生まれた半谷清寿(はんが いせいじゅ)です。半谷は1906年に『将来の東北』と題する本を刊行しています。

「磐梯(ばんだい)の噴裂、三陸の海しゅう、三県の凶飢、何ぞ其の悲惨なる。更に遡(さかのぼ)りて戊辰の役に於(お)ける創痕(そうい)亦(また)何ぞ深痛なる(中略)今日の東北は独り東北人の昏睡酣眠(かんみん)を許さざるのみならず、奮然蹶起(けつき)以(もつ)てあらゆる艱苦(かんく)と格闘して、自家の新運命を開き来らざるべからざるの時に遭遇せるものなり」

半谷は夜ノ森の内開拓に取り組み、理想の村の象徴として、染井吉野の苗木を300本を植えました。それから百年に渡り、住民の方々が夜ノ森を桜の名所にするために、桜を殖やし、育て、守り続けて来たのです。

しかし、富岡町は東京電力福島第2原子力発電所の立地自治体です。2011年3月11日に東日本大震災が起こり、第2原発は現場の命懸けの努力によって危機を免れましたが、大熊町と双葉町に立地する第1原発は3基がほぼ同時にメルトダウンするという大事故を起こしました。第1原発から半径10キロ圏内に入る富岡町は「警戒区域」に指定され居住を禁じられたために、町民たちは今も散り散りの避難生活を余儀なくされています。

わたしが初めて夜ノ森の桜の下を歩いたのは「警戒区域」に指定される前日のことでした。桜は満開で、無人となった町で咲き誇っていました。富岡町の避難指示は、今年の4月1日に、線量が高い「帰還困難区域」を除いて解除されました。



夜ノ森の桜並木は真ん中にゲートがあり、ゲートの向こうは「帰還困難区域」として閉ざされています。(中略)それが。今年は、満開だったのです。

桜は、懐かしい人の面影を連れ帰ってくれる記憶の使者のような花です。

わたしは、半谷清寿の理想に燃えた眼差(まなざ)しと、桜の樹を見上げて開花を心待ちにしていた住民の方々の眼差しを全身に浴びているように感じました。

いつか、この地で、理想と暮らしが蘇(よみがえ)りますように、とわたしは満開の桜に黙礼しました。」(「しんぶん赤旗」17年4月24日付け)

【夜ノ森の桜並木 約 1.7 kmは「帰還困難区域」(富岡町)】



【夜ノ森の桜並木 約 0.3 kmが「避難指示解除」(富岡町)】



【原発被災地を巡るツアー】(いわき駅集合・解散、費用約1万1千円)

(第4回) 6月17日(土)～18日(日) 1泊2日

(第5回) 7月29日(土)～30日(日)【相馬野馬追】 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールにて